

葛西・伊東・伊藤選手 ソチ五輪凱旋パレード

東京下川会 事務局長 宮澤 国雄

ソチ冬季オリンピック、スキー・ジャンプで活躍した下川町出身、葛西紀明選手(41)、伊東大貴選手(29)、伊藤有希選手(19)のメダル獲得・入賞「凱旋パレード」が5月1日、午後2時半から町内の中心街で行われ、町内外から多くの人が駆けつけて祝福した。

ソチ五輪では、葛西選手がラージヒルの個人銀メダル、団体銅メダル、ノーマルヒルの個人銅メダル、伊東選手は葛西選手とともに団体銅メダルを獲得。伊藤選手が女子ノーマルヒル7位入賞を果たした。

パレードは、この快挙を祝福しようと下川町冬季五輪選手応援団実行委員会(山本博隆実行委員長)で主催して開催したものの、



葛西選手に特別町民栄誉賞・安齋町長と



町民の歓呼に応える葛西・伊東・伊藤の各選手

葛西選手、伊東選手、伊藤選手は各1台ずつのオープンカーに乗って、役場前を出発して、寿フードセンター前からすえたけ商店前まで商店街区間国道239号線沿いを巡った。3選手は、多くの人から拍手や大歓声で出迎えられ、掲げたメダルを見せながら手を振るなどして応え、喜びを分かち合っていた。(3G52名寄新聞)

同日、午後6時から、メダル獲得・入賞をたたえる町の表彰授与式と祝賀会が町バスターミナル合同センターで開かれた。葛西選手に特別町民栄誉賞、伊東選手に町民栄誉賞、伊藤選手に町特別スポーツ栄誉賞が安齋町長からそれぞれ贈られ、祝福された。

ふるさと置戸町のこれからの百年に期待して

ふるさと置戸会 幹事 岡田 康

私たち東京「ふるさと置戸会」は、去る平成26年1月、創立30周年を迎え、記念式典にふるさと置戸町から、町長・議長さんなど多くの方に来賓として参加して頂きました。

そのふるさと「置戸町」は来年・平成27年に開町100周年を迎えます。

置戸町史をひもとくと、1915(大正4)年に北見市(当時野付牛村)から分村して、置戸村として誕生したと記載されています。明治40年代には池田から網走までの網走本線が置戸町を通り、教育の町の原点となる起続教育場は1908(明治41)年に開設されています。

私の実家も曾祖父たちが高知県から明治44年に入植し、両親の米寿を機に昨年我が家の100年の振り返りを行いました。このように、これまでの100年を振り返り、過去を記録する必要はあると思いますが、ここを基点としてこれからの100年をどう考えるのが大切であると思います。これからの100年は現在住んでいる町民の皆さんが開村時とは別の新たな発想をし、町の強み弱みを活かしながら、どのようなまっすぐな歩みをしていくかを考えて欲しいと思います。私たちのふるさと会もそれに対して可能な限りの支援をしたいと考えています。

在京端野会開催

川口 重志

5月16日(金)、新宿ワシントンホテルで、47回目の在京端野会が、藤澤端野自治区長、田中誠元町長(合併当時の町長)ほか、端野自治区より3名と、来賓6名の出席を得て開催されました。

今回の大きな目的は、第50回在京端野会に向け、参加会員の拡大(出席者年令が60代以上であり、50代、40代以下の若い世代の加入)へ働きかけることを申し合わせることにした。

会は、富塚会長の挨拶に始まり、藤澤自治区長より端野の近況報告あり、浅利顧問の乾杯の音頭で宴会には入りました。地区ごと、同期ごとの歓談に花が咲き、プロジェクトで地区の風景が映しだされると、懐かしい想

い出に話しの輪が広がり、楽しい時がすぎ、その中で、山形県出身の歌手・葵ひろ子さんの友情出演により、会に花がそえられました。また、国武さんの進行でビンゴゲームが開催され、一喜一憂し楽しい時間を過ごすことができました。

ホテル内の別室で2次会も催され、1次会で話しのできなかった仲間と再度の友情の確認と、来年の再会を楽しみにして、50回端野会開催へ向け、会員の拡大を申し合わせをし、22時おひらきとなりました。

終わりに、佐呂間会足利会長さん、常呂会勢旗さん、ご出席下さりありがとうございます。ありがとうございました。